

英語を学ぶ楽しさを伝える工夫をこらした授業とプログラム

城北中学校・高等学校は、毎年、難関の国公立大学や、最難関私立大学に多くの卒業生を輩出する男子進学校です。「着実・勤勉・自主」を校訓とし、確かな学力と豊かな人間性を養う教育を実践。特に「英語教育」は、英語力の向上だけではなく、世界への興味・関心を引き出すため、「楽しさ」も意識した授業を行っています。東京大学出身で、その経験を生かした受験生への指導経験も豊富な英語科教諭の金子翔平先生に伺いました。

チーム・ティーチングで多様な英語と文化に触れる

城北中学校・高等学校では、確かな学力を養うために、「3期体制」による独自の一貫教育プログラムを実践しています。中1・2は「基礎期」、中3・高1は「鍊成期」、高2・3は「習熟期」として、それぞれの学年に適した授業を行っています。

英語では、基礎期にあたる中1から、ネイティブ教員と日本人教員によるチーム・ティーチング(TT)を週に1コマ実施。時にはクイズなどのゲームを交えながら、基本的な文法を学びます。「最初はネイティブ教員の英語をうまく聞き取れなくても、日本人教員が補足するので、徐々に理解できるようになります。1名での指導に比べ、生徒たちの学習状況をよりていねいにチェックできるのもメリットですね」と、英語科の金子翔平先生は説明します。

TTでは、多様な英語や文化に触れるができるのも大きな利点です。「現在、城北には6名のネイティブ教員が在籍しています。その国籍はアメリカ、イギリス、オーストラリア、トリニダード・トバゴなどさまざま。アメリカ英語とイギリス英語の違いや、教員の文化的な背景についても学ぶことができます」と金子先生。ネイティブ教員も学校生活に深くかかわっており、授業だけではなく、生徒たちをさまざまな側面でサポートしています。

さらに、TTでは書く力を伸ばすため、高校で「エッセイ・ライティング」という取り組みを行っています。これは、特定のテーマについて、みずからの主張や具体例を盛り込んだ英作文を書くというもの。段落の構造を意識しながら、クオリティーの高い文章を書けるようにするのが狙いです。ネイティブ教員が英作文を添削して、それをもとに書き直

すことを繰り返しているうちに、文法的にも論理的にも正しい文章が書けるようになります。「エッセイ・ライティングに取り組む前段階として、中学のうちは、夏休みの思い出といった身近な話題をテーマに、英作文を書く練習をします。実際に書いてみることで、習った文法や単語の使いどころがわかり、英語力の底上げになります」

3日間の『英語漬け、を体験できる人気の「イングリッシュシャワー』

希望制のプログラムも、生徒の英語力向上を後押ししています。中1から高1の生徒が参加できる「イングリッシュシャワー」は、3日間、英語のみで会話をしなければならない『英語漬け』のプログラム。ネイティブ講師1名と生徒4~5名で一つのグループをつくり、特定のテーマについて議論し、最終日にはその成果を発表します。本来は対面式のプログラムですが、新型コロナウィルス感染症対策のため、現在はオンラインで実施しています。「学んだ英語を集中して使える機会ということもあり、生徒たちにも人気のプログラムです。毎年、各学年から100名ほどの生徒が参加しています」と金子先生。扱うテーマは学年によってさまざまで、中1では「日本の文化を紹介する」といった楽しく話せ



英語科
金子 翔平先生

るテーマを扱う一方、高1では賛否の分かれる難しいテーマを題材に、より高度な議論を行います。3日間のプログラムを通して、生徒たちは英語を話す楽しさを知り、学習への意欲を高めていきます。

高1の希望者を対象とした「ターム留学」も、人気のプログラムです。本来は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドから1か国を選択し、その国の高校に通う3か月間のプログラムでしたが、2021年度はコロナ禍の影響で、カナダのみでの実施となりました。「2021年度は、2名が留学しています。コロナ禍ということもあります。複数回研修を行い、万全の準備をしてから送り出しました。2名とも、貴重な機会を無駄にしないよう、現地の学校で一生懸命学んでいます」と、金子先生は生徒たちの様子を語ります。

そのほか、中3~高1の希望者を対象とした「オーストラリア語学研修」も人気プログラムでしたが、こちらはコロナ禍で中止に。その代わり、中1~高2の希望者に向けて「オンライン英会話」を実施しています。外部の民間企業と連携し、一定料金を払えば、1年間、何度も海外の講師と英会話をすることができます。「毎日取り組んでいる生徒もたくさんいます。海外に行けないなら国内で英語力を伸ばそうと、みんな熱心に取り組んでいますね」と金子先生。最も参加者が多いのは高1で、数十名がオンラインでの英会話を楽しんでいるそうです。

洋楽や洋書を交えながら生きた英語を楽しく学ぶ

「城北の英語教育では、『楽しさ、をとても大切にしています』と話す金子先生。「英語を単なる受験科目ではなく、世界とつながり、自分を豊かにするツールなのだと実感してほしいのです」と説明します。その一環として、金子先生の授業では、洋楽を定期的に取り上げています。「古いものから新しいものまで、まんべんなく紹介します。時には生徒のリクエストを聞くこともあります。難度の高い曲をリクエストされて、みんなで必死にリスニングしたこともありま

教員と生徒の距離がとても近いのも、城北の学びの特徴。わからないことがあれば、気軽に質問することができます



ネイティブ教員と日本人教員による「チーム・ティーチング」の様子。文法について学びながら、同時に聞く・話す力も育てます

すね」と笑います。楽曲を歌うアーティストの文化的背景を学んだり、歌詞を解釈したりしているうちに、生徒たちは、英語や世界の文化を身近なものに感じるようになります。

高校の授業では、洋書を取り上げることもあります。教員がおもしろいと感じた洋書を紹介し、印象的な一節や表現について学びます。「大学入試では、洋楽や洋書に出てくるような、『生きた英語表現、を扱う問題が提出される場合もあります。大学受験に臨むうえでも、教科書以外の英語に触れるのはとても大切なことです』と語る金子先生。そして、『生徒の興味を引く工夫が、結果として学力にもつながるのです』と強調しました。

最後に、金子先生は受験生にメッセージを送りました。「城北は教員と生徒の距離が近く、とても和気あいあいとした校風の学校です。学習も学校生活も思い切り楽しみたいという受験生は、ぜひ見学に来てください」

城北中学校・高等学校

- 所在地
〒174-8711 東京都板橋区東新町2-28-1
東武東上線「上板橋」駅より徒歩10分、
東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅より徒歩20分
- TEL 03-3956-3157
- H P www.johoku.ac.jp

《各種行事日程のお知らせ》



学校説明会などの情報は上記よりご確認ください。